

「モンゴルにおける国際協力事情」

寝屋川市役所 企画財政部 情報化推進室
課長 末岡 直樹氏
(担当 卓話・唱歌委員会)

私は、富士通の関連会社のソフトウェアの会社に在職中、ヨルダン・ハシミテ王国にSE隊員として青年海外協力隊から派遣(有給休職扱い)されました。帰国後、大阪府青年海外協力隊OB会の会長を3年間務める中で、再び国際協力の仕事をしようと会社を辞めJICA(国際協力機構)ボランティア調整員(青年海外協力隊を後方支援)として、アフリカザンビア共和国に派遣。技術指導をしたいと思い、技術を理論的に人に教える必要を感じて大阪市立大学大学院創造都市研究科都市情報学情報基盤分野前期博士課程に社会人枠で入学しました。在学中にモンゴルに技術指導に行きたいと言われ、大学院を休学して参りました。

帰国と同時に修士論文を出し、卒業しました。その後、寝屋川市のコンピュータ専門家のCIO補佐官募集を知り、地元でもあり、市役所に入ることになりました。

モンゴル国の成立と歴史

本日は、私が昨年派遣されたモンゴルでの経験を、お話し申し上げます。

モンゴルというと、最近では「お相撲さんの強い国」というイメージがあると思います。

モンゴルは中国とロシアに挟まれた国で1921年に清国から独立してモンゴル共和国を樹立、現在は共和国です。1921年の独立から2年を経た1923年に当時のソ連の影響を受けて、世界で2番目の共産主義国になっております。元々は中国の属国みたいな扱いをされておりましたので、放置するとまた占領されてしまう、ソ連の下に入れば、それを抑止できるだろうと、モンゴル国民は共産主義の道を選んだようです。

今年がモンゴル帝国建国800年で、大々的なイベントを展開中です。小泉首相も800周年なのでモンゴルを訪問されたと思います。現在角川映画で、チンギス ハンの生涯を描いた映画が撮影されているようです。日本とモンゴルとの関わりは、古くはチンギス ハンの元(蒙古)が、鎌倉時代に日本を攻めた「元寇の役」があります。

モンゴル人の気質

当時日本を攻める程の勢いのモンゴルが現

在では発展途上国です。強いリーダーがいると、その許に、気性の激しい人たちですから、一糸乱れず攻めて征服していくけれども、そのバランスが崩れると、バラバラになってしまいます。

国際協力でモンゴル滞在が長い先輩は、「モンゴル人は会社を創ると、最初バツと伸びるが、人数が増えると、どうしても主導権争いが起きて、バラバラになってしまう」と言います。

これは遊牧民特有の気質だと思います。遊牧民は自分の方で、家族と自らを守りながら家畜を放牧して遊牧地を移動します。その基本は家族、一族です。家族は信用します。もし、強いリーダーがおればそれに従う。守ってもらえるからですが、一旦バランスが崩れると、家族単位で分裂してしまう気質の人たちです。

単独のパワーはすごく持っていますので、相撲でモンゴル人が横綱、大関になるのは個人競技に強い力を発揮するからだだと思います。

モンゴル国の基本情報

広大な草原に動物がいて、馬に乗って遊牧している人たち、これがモンゴルのイメージかと思いますが、地方に行くと全くその通りで、伝統的な生活を送る遊牧民は人口の15%位です。それ以外の人たちは、首都のウランバートルに全人口の1/3が集中しております。

1998年の統計では、モンゴルの総人口は258万人と大阪市並です。面積は日本の4倍の広大な土地に、日本の1/50の人たちが住んでいる。首都ウランバートルが総人口の1/3を占め、それ以外は殆ど草原にある村で暮らしています。

発展途上国となった理由

1990年代にソ連が崩壊し、モンゴルは社会主義を捨て共和国制、市場経済になりました。ソ連の傘の下にいた時はエネルギー、技術等の供与があって生活が成り立ったけれども、さあ自立せよ、と放り出された時、産業も殆どなく、社会主義の公務員だった人たちの多くが遊牧生活に入りました。しかし、本来遊牧民でない人たちですから、完全に失敗。立ち行かなくなって生活できない底辺の人たちが、首都ウランバートルに集っております。

ウランバートルは、ソ連の下にいた時に30万人が住めるというデザインで造られた都市です。30万人のキャパシティに対して260万人の1/3の90万人が、仕事を求めて首都へと流入するので、完全に人で一杯です。